

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきしゃだんほうじん おおさかしおんがくだん		
	制作団体名	公益社団法人大阪市音楽団		
	代表者職・氏名	理事長・石井 徹哉		団体ウェブサイトURL
				https://shion.jp
	制作団体所在地	〒 559-0022	最寄駅(バス停)	Osaka Metro「北加賀屋」駅
		大阪市住之江区緑木1-4-138		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	おおさか しおん ういんど おーけすとら		
	公演団体名	Osaka Shion Wind Orchestra		
	代表者職・氏名	理事長・石井 徹哉		団体ウェブサイトURL
				https://shion.jp
	公演団体所在地	〒 559-0022	最寄駅(バス停)	Osaka Metro「北加賀屋」駅
		大阪市住之江区緑木1-4-138		
	制作団体 設立年月	大正12年6月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		理事長:石井徹哉/専務理事:長尾裕之/常務理事:福田圭佑/理事:池末浩規 他5名/監事:岡本健一	理事:9名、監事1名、正会員:5名、顧問:1名、楽団員:37名、事務職員:9名 加入条件:オーディション等による	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	石井 徹哉
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	國府利支恵
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		ishii_t@shion.jp		0666842130

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>大正 12(1923)年 元陸軍第四師団軍楽隊有志により「大阪市音楽隊」を結成。昭和 9(1934)年 大阪市直営の楽団となる。</p> <p>昭和 21(1946)年 大阪市音楽団と改称。</p> <p>昭和 54(1979)年 大阪芸術賞(府・市)を受賞。</p> <p>昭和 56(1981)年 市音楽団事務所・練習場を天王寺公園内から大阪城公園内へ移転。</p> <p>昭和 63(1988)年 日本民間放送連盟賞・ラジオ番組娯楽部門最優秀賞を受賞。</p> <p>平成 26(2014)年 大阪市直営から「一般社団法人 大阪市音楽団」として民営化。</p> <p>平成 27(2015)年 楽団名称を「大阪市音楽団」より「Osaka Shion Wind Orchestra(通称 Shion)」と改称。</p> <p>平成30(2018)年 創立95周年。公益社団法人に移行。</p> <p>令和5(2023)年 創立100周年。ミッドウエストクリニック(アメリカ・シカゴ)にて招待演奏を行う。初の海外公演</p> <p>令和6年(2024年) 台湾・桃園Band Festival、韓国・大邱コンサートハウス・アンサンブル・フェスティバルに出演。</p>
	学校等における公演実績	<p>昭和 38(1963)年より吹奏楽普及のため、学校の体育館や施設などにて児童・生徒のための公演を実施してきました。開始当初は年間 20 公演程度の公演数が、昭和 50 年代には年間 80 公演を超える回数となりました。また、児童・生徒への情操教育の一貫として、音楽専用ホールにて鑑賞ができるように、現在大阪市内において、合同音楽鑑賞会として実施しています。近くに ホールがない学校に対しては、従来とおり体育館などでの演奏活動も続けています。</p> <p>近年の学校公演の実績</p> <p>令和2(2020)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム2公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 16公演</p> <p>令和3(2021)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム4公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 12公演</p> <p>令和4(2022)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム4公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 22公演</p> <p>令和5(2023)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム3公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 19公演</p> <p>令和6(2024)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム4公演「合同音楽鑑賞会」プログラム17公演</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>平成29(2017)年 長野県松本市小学校巡回公演(松本ろう学校、松本養護学校、寿台養護学校、松本盲学校)</p> <p>平成30(2018)年 大阪市視覚支援特別学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和元(2019)年 大阪府立生野支援学校、大阪府立北視覚支援学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和2(2020)年 大阪府立住之江支援学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和3(2021)年 大阪府立生野支援学校、大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪府立生野聴覚支援学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和4(2022)年 大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立大阪南視覚支援学校小学部、大阪府立生野支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪府立難波支援学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和5(2023)年 大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪南視覚支援学校、大阪府立難波支援学校(合同音楽鑑賞会)</p> <p>令和6(2024)年 大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪南視覚支援学校、大阪府立難波支援学校(合同音楽鑑賞会)</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://x.gd/tNVqS	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	あり
----	----

【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○	
		小学生(高学年)	○	中学生	○	
	企画名	「吹奏楽で描く音楽の世界をみてみよう！」				
	企画のねらい	文部科学省の学習指導要領に音楽科の目標としてある、【表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。】に沿い、生演奏でしか体感することのできない音楽鑑賞体験を行います。また、「吹奏楽」という、学生にとって親しみやすいジャンルの特性を活かし、様々な時代・国の音楽を通して音楽を聴くことの楽しみ方、他人の演奏を聴くという姿勢を培うきっかけとなることを目的とします。部活動の地域移行に伴い減少している「楽器演奏を通じ芸術文化を身近に捉える」機会の創出を、本企画の実施により行うというねらいがあります。物語や風景、心情など、音楽を通して描かれる様々な情景を体感してもらう				
	演目概要・演目選択理由	※別添あり(別添1)				
	児童・生徒の参加または体験の形態	1.指揮者体験:指揮者による指揮法の解説により生徒全員のその場での体験後、代表生徒に実際にオーケストラの指揮を体験してもらい、音楽の構造と関わりを学びます。 2.校歌斉唱(選択式):当団の伴奏で合唱し、参加者全員で一つの音楽を作る体験をします。 3.吹奏楽部・金管バンド等音楽クラブとの共演(選択式):当団演奏の中に入り一緒に合奏を行い、楽団との共演を行います。 4.手拍子による演奏参加:アンコールでは、校歌や合同演奏といった参加がない場合でも、指揮者の誘導により手拍子で演奏参加の体験ができます。				
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	合奏50名(舞台)、合唱500名(客席)		
			鑑賞人数目安	2000名まで(校外施設等利用含む)		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	1. ヴィヴァ・ムジカ！(A.リード) 2. 楽器紹介のための「小さな世界」(R.M.&R.B.シャーマン／編曲:郷間 幹男) 3. 「ペール・ギュント」組曲第1番より 朝、山の魔王の宮殿にて(E.H.グリーグ／編曲:M.L.レイク) 4. 吹奏楽のための抒情的「祭」(伊藤 康英) 5. 【リズムコーナー】サー・デューク(S.ワンダー／編曲:天野 正道) 6. 【指揮者体験コーナー】歌劇「カルメン」より 闘牛士(第一幕への前奏曲)(G.ビゼー／編曲:高 昌帥) 7-1.(選択)オリент急行(P.スパーク) 7-2.(選択)たなばた(酒井 格) 8-1.(選択)アンコール 宝島(和泉宏隆／編曲:真島 俊夫) ※吹奏楽部等との合同演奏可能 8-2.(選択)アンコール 校歌(書き下ろし吹奏楽編曲)					
公演時間	90	分				
出演者	指揮者:堀坂輔(予定)、佐々木新平(予定)、永峰大輔(予定)、井村誠貴(予定) 司会者:覚道沙恵子(予定) 吹奏楽:Osaka Shion Wind Orchestra(50名編成) ※別添あり(別添2)					
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	吹奏楽:Osaka Shion Wind Orchestra /1923年に誕生した日本で最も長い歴史と伝統を誇る交響吹奏楽団。クラシックからポピュラーまで多彩なコンサートを展開し、各都市での演奏会をはじめ幼稚園から高等学校までの音楽鑑賞会、吹奏楽講習会、CD録音など、幅広い活動を通じて音楽文化の向上と発展のために力を注いでいる。 司会:覚道沙恵子(予定)/2015～2020年和歌山放送アナウンサーを経る。2016年 アノンシスト賞 近畿中部北陸ブロック「読み・ナレーション部門」新人奨励賞受賞。					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者:	50	名	運搬	積載量:	3.5/2 t
	スタッフ:	9	名		車 長:	7.3/6.5 m
	合 計:	59	名		台 数:	2 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		有		前日仕込所要時間		時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～10時		13時30分～15時	15分	15時～16時30分	17時
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月		7月		8月		9月
	11日		13日		0日		9日
	10月		11月		12月		1月
	20日		11日		14日		15日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		93日
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) <small>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し</small>	<p>体育館での公演の様子</p>						
	<p>指揮者体験コーナーの様子</p> <p>アンコール終了後、生徒代表からのご挨拶の様子</p>						
著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】

ワークショップの
ねらい

管楽器は「吹く」ことにより音が出る楽器ですので、その「吹く」ことによって「なぜ音が出るのか」実際に楽器を使いながら分かりやすく構造を説明し、生身の人間が創る音楽芸術の素晴らしさを感じ取っていただきます。

ワークショップでの予習を通じて、音楽を聴くだけではなく、自分自身が実際に体感することによって得られる要素を合わせて学び、本公演への準備をするというねらいがあります。

吹奏楽部との合同演奏を希望される場合では、自分自身が演奏することにより奏でる音を通じて、音との結びつきも合わせて学び、実演芸術の素晴らしさを体感できます。当日は難しい説明ではなく、聴く側と同じ目線に立った進行を心がけます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

20 ～500名

ワークショップ
実施形態及び内容

主指導者1名、補助者2名の合計3名での実施を予定。時間を大きく2コマに分け実施します。

①講師3名の紹介
・木管、金管、打楽器の講師3名と司会者1名により進めていきます。楽器を持って入場し、それぞれの楽器を間近で鑑賞してもらいます。

②吹奏楽の歴史についてのレクチャー
・吹奏楽が日本に伝えられたのは150年前。日本では何時代？（答え：明治時代）など、身近なキーワードを伝えて記憶に残る工夫をいたします。
・現在の日本での吹奏楽人口が100万人以上であり、世界で最も吹奏楽経験者の多い国であることを紹介、楽器や演奏者に対する興味を持ってもらい、この後のワークショップへの導入といたします。

③管楽器のお話
・管楽器・打楽器・弦楽器の特徴や成り立ちの違いを、スライドで図を見せながら解説を行います。
・木管楽器・金管楽器・打楽器の音の出る仕組みを、楽器演奏だけで無く唇やリードを使った実演を交えて行います。打楽器では、スネアドラム(小太鼓)を用いて、ロールやリムショットといった演奏方法を間近で見ってもらうことにより、より詳細に楽器の特徴を覚えていただきます。

④音階のお話
・日本の音階と世界の国々との音階の違いを、楽器演奏で聴いてもらい、「民謡音階」「琉球音階」「アラビヤ音階」などの解説を行います。

⑤ワークショップ講師それぞれの楽器(3種類)についての詳細な説明と演奏
・奏者自身の演奏と声(楽器を始めたきっかけや、プロフェッショナルとして日々意識していることなど)を本人達から聞くことにより、楽器を通して成長できたエピソードなどを交えてお話しします。

⑥リズム体験コーナー
打楽器奏者の先導により、手をたたいてリズムの追いかけてもらいます。5～6種類のリズムパターンを使い、生徒には手や足で音を鳴らし、全身を使って音楽を表現することを体感してもらいます。

⑦指揮者体験コーナー(事前学習)
本公演で指揮者体験で演奏をする「カルメン」を演奏します。その後、指揮のやり方や全員で息を合わせるためのコツをレクチャーした後、数名の生徒にでてきてもらい、指揮者体験を行います。

⑧質疑応答
学生たちが興味をもったポイントを、本公演に活かします。

その他ワークショップに
関する特記事項等

ワークショップから本公演までの期間中、課題を一つ決め、取り組んでいただきます(例として本公演の演奏曲を毎日昼休みに流すなど、当楽団の演奏CDを授業で聴いておく。指揮者コーナーの練習、全員合唱の練習など)。

これにより児童、生徒のモチベーションが上がり本公演までの期間が生きたものになり、公演への期待も高まります。

中学校で吹奏楽部との合同演奏の希望がある場合は、共演曲などを題材に基礎練習など、合奏でのポイントや音楽の楽しみを体感していただきます。

※別添あり(別添③)

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。			
会場の設置階の制限	2F以上応相談		主幹引き込み電源容量	
舞台設置面積	間口	14 m	奥行	8 m
	高さ	指定なし		
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可
搬入間口の広さ	幅	1.5 m	高さ	2 m
遮光の要否	不要		緞帳の要否	有無のみ確認したい
ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定		なし
		ピアノを使用しない場合の移動の要否		要
搬入車両(トラック等)の横づけ	必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	50 m以内
搬入車両の種類	中型トラック		台数	2 台
搬入車両の大きさ	車幅	2.5 m	車長	8 m
備考	通常はフロアでの演奏を想定しております(舞台上:相談可) 演奏場所の確保ができる場合はピアノの移動に関しては不要な場合もあります。			

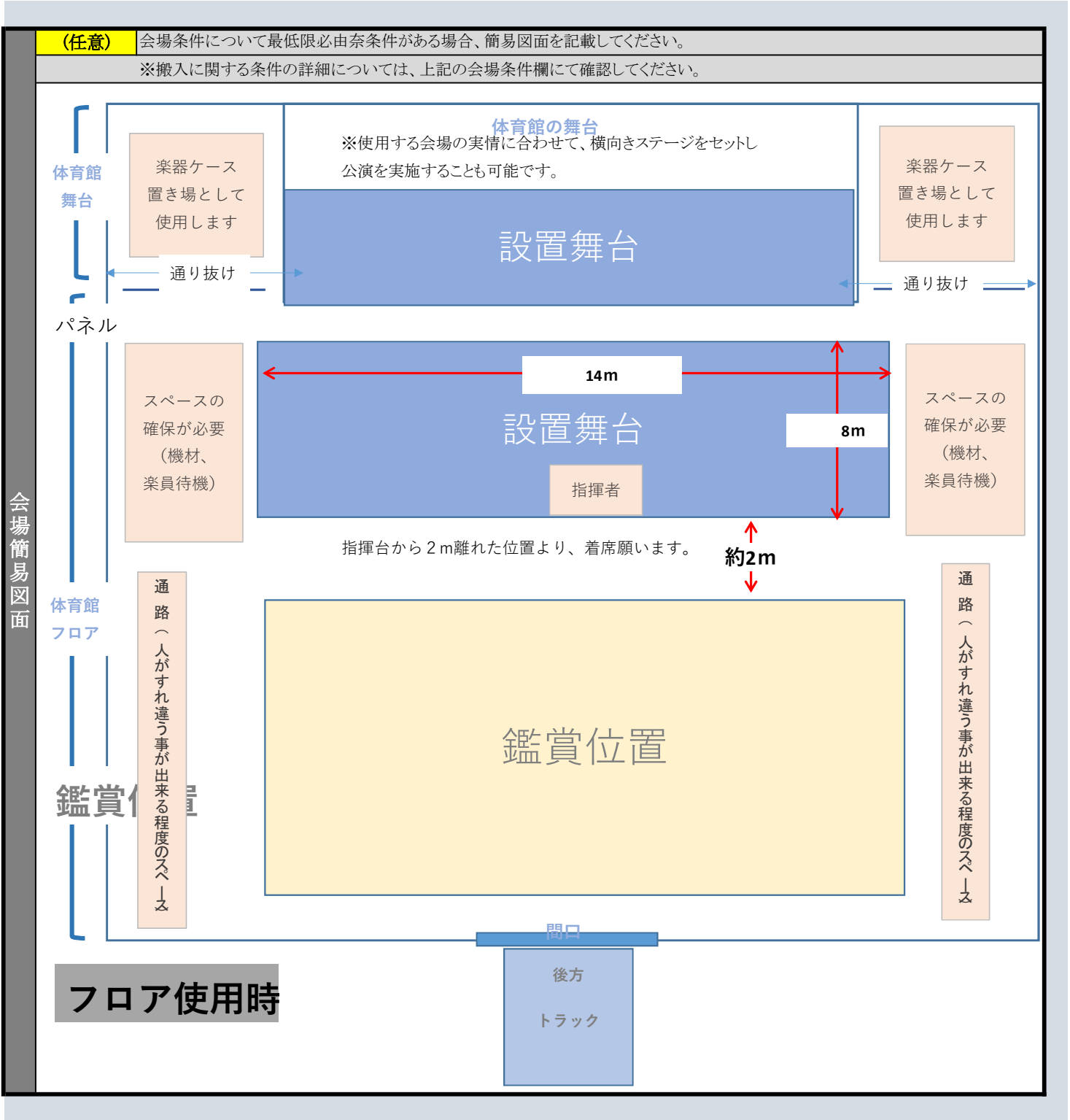
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					別途発生する時間はありません
	ワークショップ				別途発生する時間はありません	
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	約20分	公演当日のゲネプロ時(授業の休憩時間等に合わせられるよう、共演楽曲のリハーサル時間については調整いたします)	共演楽曲のリハーサル	
	本公演					別途発生する時間はありません

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	(搬入経路:相談可)敷地内に4t/2tトラックおよび貸切バス2台乗り入れは可能でしょうか	
	2	暑い時期・寒い時期での開催の場合、会場と控室での冷房・暖房器具の使用が可能でしょうか	
	3	(搬入経路:相談可)出来る限り階段のない経路が望ましいです	



別添

なし

【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

弊楽団は、2014年に民営化以後、大阪市から全国へ活動の拠点を広げてまいりました。鑑賞会事業につきましても積極的に取り組んでおり、音楽専用ホールにて鑑賞ができるように、現在大阪市内において「合同音楽鑑賞会」として複数校同時に鑑賞していただく【合同音楽鑑賞会】のスタイルで実施しています。実施校様より、「インターネットやCDと言ったデジタルな音楽を通常は聴いている中で、吹奏楽の生のサウンドが、これほど素晴らしく、自然と涙がこみ上げて来るものだとは、正直思っていませんでした。」と評価していただきました。我々といったしましても、全国各地へこの感動をお届けし、この体験が小学生・中学生の時期にしか味わえない「一生の宝物」となることを願っております。

「吹奏楽の持つ多様性を活かした演目」で音楽に対する垣根を取り払うとともに、中学校公演では同じ吹奏楽を志す生徒との合同演奏による交流を持ち、直接演奏技術を伝える事取り組みなど、弊楽団ならではのスキルが御事業の目的の一助となれば幸甚です。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

第一に、前段階で実施校と綿密に打ち合わせ、ワークショップの際の下見においても、入校可能時間帯(登下校時間帯を避ける)搬入動線、舞台位置、鑑賞位置、設備確認などを十分にさせていただき、前日、あるいは当日のセッティングおよび撤収が安全かつ円滑に遂行できる体制作りを実施いたします。

第二に、校内で先生や児童・生徒へ接する際は、どんな状況であっても安全配慮に従事し、笑顔で気持ちよく挨拶ができるよう、人とのコミュニケーションを何より大切にし、信頼関係の中でスムーズなワークショップ、本公演を実施して参りたい所存です。

また、公演実績を実施校の許可のもと、公式SNSにも掲載し、「学校巡回公演事業」のPRとともに、広く周知することで、より身近な事業である事をお伝えしていきます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

- 鑑賞会実施テンプレートに沿って、不備がないか双方よりチェックして実施します。
- テンプレート以外にも、下見や打合せを綿密し、学校の実情把握にも努めます。
- 担当教員が全教員への説明をしやすい資料作りの協力をいたします。
- 担当教員がわかりやすいように、公演準備お願い書(テンプレート)を作成し、それを基に 備方法についてもわかりやすくお伝えいたします。
- 弊団事務局に学校様との連絡担当者を置き、公演当日までの一貫した実施フォローを行います。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

- 地域毎の特性や事情に配慮し、各学校の要望を最大限お聞きします。
- 鑑賞する児童・生徒が音楽に相当の興味をもっている訳ではないので、興味の幅を広げる工夫として、誰もがその場で取り組めて参加できるプラン作りをいたします。
- 立奏等、分かりやすいパフォーマンスの提供や、共演者の配置などにも気を配り、映像としても、印象に残りやすい公演作りをいたします。
- 訪問先の学校校内で出会った児童・生徒とは、しっかり挨拶を交わし、演奏からだけではなく、人として基本的なことを示します



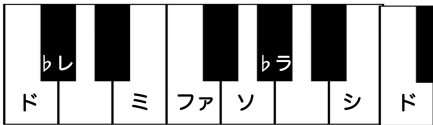
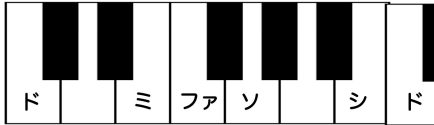
【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

- 当日の公演パンフレットには児童に伝わりやすい表現を使い、楽曲解説や音楽の歴史を学習できるよう工夫を行います。また、音楽を楽しみながら鑑賞をするマナーに触れる体験を行います。
- 吹奏楽部等の文化芸術に関する部活動が減少している中、ワークショップ・本公演を通じ楽器演奏を身近に感じてもらうことにより、音楽を通じた情操教育の一助となるよう努めます。

リンク先	No.2	【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】
項目内容演目概要・演目選択理由	<p>【第1部】</p> <p>1. ヴィヴァ・ムジカ！（A.リード） 吹奏楽のオリジナル作品で幕開けし、プロの吹奏楽サウンドを体感していただくところから開演をする。音楽そのもの、それに携わる人々へのリスペクトを描いた楽曲。</p> <p>2. 楽器紹介のための「小さな世界」（R.M.&R.B.シャーマン／編曲：郷間 幹男） 「子どもの世界」を、多様性とともに描く楽曲にのせて、各楽器のソロによるメロディーを繋いでゆくというスタイルによる楽曲。</p> <p>3. 「ペール・ギュント」組曲第1番より 朝、山の魔王の宮殿にて（E.H.グリーグ／編曲：M.L.レイク） 北欧の作曲家E.グリーグによる劇付随音楽。「朝」はクラシックの名曲として知られており、実演で聴いていただく機会づくりを行う。テンポがどんどん加速をしていく「山の魔王の宮殿にて」では、テンポ・音量の変化が特徴的である。</p> <p>4. 吹奏楽のための抒情的「祭」（伊藤 康英） 現代日本の作曲家による作品。東北地方の民謡をベースとした楽曲であり、祭りの情景を描く。ワークショップ時に解説を行い学習した【日本の音階】をとり入れた楽曲。</p> <p>～休憩～</p> <p>5. 【リズムコーナー】サー・デューク（S.ワンダー／編曲：天野 正道） 「ファンク」というジャンルの楽曲を通じ、手拍子による生徒全員参加によるリズムコーナー。演奏前にリズムの練習を行い、Shionの演奏とともに全員共演を行う。</p> <p>6. 【指揮者体験コーナー】歌劇「カルメン」より 闘牛士（第一幕への前奏曲）（G.ビゼー／編曲：高 昌 帥） 指揮者による「指揮法」レクチャーと全員での体験ののち、代表生徒数名が楽団を指揮をする体験を行う。世界でもっとも人気のあるオペラの1つ。テンポの速い曲で振れ幅も大きい。</p> <p>7-1.（選択）オリエント急行（P.スパーク） ヨーロッパを横断する急行列車での旅を描く、吹奏楽の名曲。列車が発車する様子を、奏者のプレスや汽笛の音で表現する。</p> <p>7-2.（選択）たなばた（酒井 格） 日本人作曲家による吹奏楽作品。学校吹奏楽部や社会人吹奏楽団で演奏される機会も多い人気楽曲であり、小学校高学年・中学生にぜひ聴いて欲しい楽曲。</p> <p>8-1.（選択）アンコール 宝島（和泉宏隆／編曲：真島 俊夫） アンコールとして、手拍子で参加がしやすい楽曲を取り入れる。吹奏楽の大きな特色である、ポピュラー音楽との親和性の高さを実演。ワークショップでも扱う「グルーヴ」を体感してもらい、音楽の【楽しさ】を印象づけて締めくくる。 ※宝島は、吹奏楽部等との合同演奏も可能です。</p> <p>8-2.（選択）アンコール 校歌 学校校歌を、吹奏楽版によるオリジナルアレンジで演奏し、児童・生徒の合唱との共演を行う。</p>	

出演者

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3-①	【公演団体名	Osaka Shion Wind Orchestra	】
ワークショップの ねらい	<p>管楽器は「吹く」ことにより音が出る楽器ですので、その「吹く」ことによって「なぜ音が出るのか」実際に楽器を使いながら分かりやすく構造を説明し、生身の人間が創る音楽芸術の素晴らしさを感じ取っていただきます。</p> <p>また、予習を通じて、音楽を聴くだけではなく、自分自身が実際に体感することによって得られる要素を合わせて学び、本公演への準備をいたします。</p> <p>吹奏楽部との合同演奏を希望される場合では、自分自身が演奏することにより奏でる音を通じて、音との結びつきも合わせて学び、実演芸術の素晴らしさを体感できます。</p> <p>本公演では、鑑賞教室のスタイルは取っているものの、あくまでも演奏会として楽しんでいただきたいと考えており、当日は難しい説明ではなく、聴く側と同じ目線に立った進行を心がけます。</p> <p>●本公演までの準備期間を活用するため、下記の通り、ワークショップ後に簡易な課題例をお示しいたします。各学校で何か1つでも積極的に取り組んでいただくことで、児童・生徒の皆さんが純粋に生の音楽に触れ、作り込まれた音の1つ1つを身体全体で受け止めていただき、鑑賞体験がよりスムーズで豊かなものになるように願っております。</p> <p>1)演奏曲の中の数曲を校内放送などで継続的に流していただき、当日への期待感を高める。 または、授業でCD 鑑賞の時間を持ていただく。</p> <p>2)校歌を選択された学校では、参加される児童・生徒の皆さんで、放課後やオリエンテーションの時間を利用してクラス単位で練習してもらおう。</p> <p>3)合同演奏を希望されるクラブ活動におきましては、できれば当日の演奏やパフォーマンスに集中できるよう暗譜できるレベルまで練習してもらおう。</p> <p>●上記の取り組みにより、児童・生徒の皆さんのモチベーションが上がり、本公演までの経験も生きたものとなり、公演への期待も高まり、公演の成功へと導きます。</p> <p>[2025年度ワークショップ資料より(抜粋)]</p>			
	<div><div><p>金管楽器の吹き口</p><p>唇の振動を、マウスピースという部品に伝えて楽器に伝えて音を出しています。</p></div><div><p>楽しく鑑賞するために</p><p>♪よく見て・聴きましょう。 どんな音がするか聴いて、耳や体に伝わる響きを感じましょう！</p><p>♪演奏が終わったら拍手をしましょう。 演奏に対して拍手で気持ちを表しましょう。</p></div></div>			
	<div><div><p>いろんな音階</p><p>■アラビア音階</p></div><div><p>いろんな音階</p><p>■琉球音階</p></div></div>			